



山口大学 山口学研究センター紀要

山口学研究

第2巻



Bulletin of Yamaguchi Science Research Center

2022

巻頭言

この度、山口学研究センター紀要「山口学研究」、第2巻を刊行することとなりました。今回は令和3年度に実施された研究成果の力作ぞろいで、山口学研究が着実に活動として定着してきたことが実感されます。山口学研究は山口をフィールドとした地域学研究プロジェクトであり、山口の自然、歴史、文化、観光、産業、教育等様々な分野における地域課題を発掘し解決を図るとともに、地域を科学的に探究することにより新たな知見を得ようとするものです。一方、本研究は、研究者の専門分野の垣根を越えて、文理融合の視点で他の研究機関や地域を巻き込みながら総合的に研究を行う点が特徴となっております。地域の抱える課題は、一つの分野のみで解決できるものではなく、様々な分野の知見を結集して、多面的に検討を行うことが求められます。

このような文理融合の研究の代表例として、国指定史跡である「周防鑄銭司跡」を中心とした山口学研究プロジェクト「古代テクノポリス山口 ～その解明と地域資産創出を目指して～」(令和2年度)があります。この研究では、周防鑄銭司がいつ、どこで、どのように稼働していたかを明らかとすることが主要な研究テーマですが、鉱物学者は鑄造に用いた銅の産地を、地理学者は当時の鑄銭司地区の自然環境を、地質学者は産地である銅の鉱山の稼働時期を、地球物理学者は遺跡の規模をそれぞれ研究し、考古学の専門家以外の様々な分野の研究者により、古代テクノポリスの全貌を明らかとするための研究が実施されました。さらに、銅の産地の特定のための鉱石や遺跡から発掘された鉱滓の化学分析は山口大学と新たに包括的連携協定を締結した国立歴史民俗博物館との共同研究として行われ、発掘された銅貨の特定と形状把握のために X 線 CT を用いた検討は(財)元興寺文化財研究所との共同研究で実施されました。このように、多くの研究者が協力して約 1200 年前に都から遠く離れた山口の地に確実に存在したテクノポリスを復元しようとして研究を推進しております。

今後も、地域課題の解決と科学的探究のために、山口大学の総合力とネットワークを活用して山口学研究を進めていきたいと考えております。研究のモットーは「楽しく夢のある研究を地域とともに！」です。

今後も「山口学研究」紀要を通じて新しい研究成果を発信してまいります。

山口大学山口学研究センター長

田中 和広



山口学研究センターについて

平成 27 年 12 月 9 日、山口大学創基 200 周年事業のひとつとして、「山口学研究センター」を設置しました。同センターは、山口県をフィールドとした自然・文化・歴史・産業・観光・流通・教育等に関する研究を推進するとともに、その成果を活用し、地域社会の活性化に寄与することを目的としています。

この目的に沿った研究プロジェクトを公募・選定し、選定した個々のプロジェクトに対する支援（経費、広報、学外との調整など）を行うとともに、迅速な情報発信によって研究成果を地方自治体や地域社会に還元することで、地方創生や地域活性化の取組に繋げていきます。

紀要「山口学研究」 【第2巻】

目次

I 巻頭言

山口学研究センター長 田中 和広

II 山口学研究センターについて

III 研究報告 (2019 年度採択プロジェクト)

「CAPS マーカーを用いた山口県の幻のミカン クネンボ (九年母) の探索」

研究プロジェクト名：山口・食の温故知新

～長州食材・料理を復活し新たな価値を見出す～

柴田 勝, 樋口 尚樹, 元水 在斗, 岡崎 芳夫, 西岡 真理,

五島 淑子 1

「SDGs による山口県のスポーツ観光講座とユニバーサルツーリズムの実践報告」

研究プロジェクト名：SDGs による山口県内スポーツ観光資源の開発

西尾 建, 橋本 芙奈, 木寺 航大, 鳴尾 裕貴 10

「ジャック・ロンドンに雇われていた日本人、中田由松

—山口県大島郡周防大島町沖家室島(おきかむろじま)の

機関誌『かむろ』の調査から—」

研究プロジェクト名：山口県におけるハワイ移民のビッグデータ解析と
新規事業の創出

藤原 まみ 17

「山口の自然とジオパーク - 地球目線の学び - 」

研究プロジェクト名：SDGs による山口県内スポーツ観光資源の開発

脇田 浩二 21

IV 投稿規程 48

V 編集後記

山口学研究センター紀要「山口学研究」投稿規程

(目的等)

第1条 山口大学における山口県の自然文化、歴史、産業、観光、流通、教育等に関する研究成果を活用し、もって地域社会の活性化に寄与することを目的として、山口学研究センター（以下「センター」という）紀要「山口学研究」（以下「紀要」という。）を発行する。

2 紀要の編集及び発行は、本規程の定めるところによる。

(投稿資格)

第2条 紀要に投稿できる者は、次のとおりとする。

- (1) 本学の常勤及び非常勤の教職員（退職者を含む）
- (2) (1)に定める者を代表者とする山口学研究プロジェクトの共同研究者
- (3) その他、紀要編集委員会（以下「委員会」という。）が認めた者

(原稿の種類)

第3条 紀要に投稿できる原稿の種類は、「山口学」に関する内容とする。「山口学」とは、山口大学が推進する、山口県に関わる文理融合の研究である。

(原稿の体裁)

第4条 原稿は原則和文とする。原稿はA4判（上下左右に各20mmの余白）にMS明朝10ポイントで横2段組（25字×50行×2段）とし、原則として、図・表・写真を含み12ページ以内とする。原稿は電子媒体で、使用するファイル形式はwordファイルとする。

(原稿の形式)

第5条 下記の(1)～(6)の形式とする

(1) 表題等について

表題及び執筆者氏名はMS明朝16ポイントの太字とし、所属をMS明朝14ポイントとする。一方、英語表記では、表題及び執筆者氏名をTimes New Roman16ポイントとし、所属をTimes New Roman14ポイントとする。

(2) 要旨

要旨は400字以内で、背景・目的・方法・結果・結論等を簡潔に記載する。

(3) 本文

和文の句読点は全角「、」「。」を用いる。

章立ては**1 2 3**…(全角太字)と太字で表記する。節は**1.1. 1.2.**…(半角太字)のように太字で表記する。

(4) 図・表・写真

図・表・写真は本文中にモノクロで挿入し、キャプションも含め版面に収まるよう

作成を行い、記載の順序に番号を付ける。線画をスキャニングする際にはモードはモノクロ 2 階調、解像度は仕上がり時の寸法で 1,200dpi 以上に設定する。また、写真をスキャニングする際には、モードはグレースケール、解像度は仕上がり時の寸法で 350dpi 以上に設定する。

図・表・写真の番号及びキャプション(タイトルや説明)の位置は、図・写真の場合は図・写真の下側、表の場合は表の上側とする。

(5) 注釈

注は、1)、2) のように通し番号による上付き数字で示し、本文の後(引用・参考文献の前に)【注】の項目を建て一括して記す。

例：．．．である¹⁾。

【注】

1) 注は本文の後に一括して示す。

(6) 本文中における文献の引用方法

引用・参考文献については注釈の後、論文の末尾に【引用・参考文献】の項目を建て、日本語文献と英語文献を分けて日本語の場合は著者名五十音順、英語の場合は abc 順で一覧にする。

本文の該当箇所に、著者 1 名の場合(著者姓○○, 刊行年) 例：(田中, 2015)、著者 2 名の場合(著者姓○○・著者姓○○, 刊行年) 例：(田中・中村, 2015)、著者 3 名の場合(著者姓○○ほか, 刊行年) 例：(田中ほか, 2015) と表記する。

(7) 引用・参考文献一覧の作成様式 (日本語の場合)

=著者姓名=, XXXX (刊行年), 「=論文名=」, 『=書名=』, 発行者, pp. XX-XX (開始頁と終了頁)。(巻号頁は vol. no. pp. で統一)

論文名は「」でくくり、雑誌名を『』でくくる。書籍の場合は、引用内容を「」でくくり、書籍名を『』でくくる。

<例> 山下浩一, 1998, 「○○に伴う裂傷の頻度・部位・予防法」, 『日本○○学会誌』, ○○書店, pp. 97-600.

[URL のみを表示する場合]

上記と同様に引用先の名称と年号に続いて引用箇所のタイトルと URL を付す。

<例> 防災財団, 2018a, 『地域防災指針』 <https://www.bosai.co.jp/content/1266645>

(8) 引用・参考文献一覧の作成様式 (英語の場合)

Last Name に続いて、Middle Name と First Name を頭文字とピリオドで表示、各著者の間はカンマでつなぎ、最終著者との間は and でつなぐ。年号に続いて、文献名を“ ”で囲い、雑誌名はイタリックで表示する。巻号は、vol. 及び no. で表示し、頁は pp. の後に最初と最後のページ数をハイフンでつなぐ。doi が分かる場合

は、doi の URL を添える。

<例> Hill, V. A., Barber, E., Carter, N., and Volt, E., 2019, “Turbidity Current caused by Tsunami, 2011”, *Natural Science*, vol. 7, no. 42, pp.23-52, <https://doi.org/10.1166/s40939-018-0353-8>

[書籍全体を引用する場合]

著者名と年号（表記方は上述に準じる）の後に書籍名を“ ” で囲んで表示し、カンマのあとに出版社を表示し、頁数の後に p. を付す。

<例> Raymond, B., 2003, “Future of Robot”, Mechanic Publishing Co. Ltd., 366 p.

[書籍の一部を引用する場合]

著者名と年号（表記方は上述に準じる）の後に、引用部の名称を“ ” で囲み、*In:*（イタリック）の後に編集者名を書き、(ed.)あるいは(eds.)と書いたのち、イタリックで書籍名を表示し、カンマのあとに、引用頁数(pp. -)と出版社を示す。

<例> Abbot, V. A., Charleston, E., Porter, N., and Vail, E., 2015, “Ancient Music before J. S. Bach” *In:* Thompson, A.B. and Carry, O.N. (eds.) *Music Science*, American Publishing Co. Ltd. pp.3-66.

[URL のみを表示する場合]

著者ないし引用元の名称の後に閲覧した年号を付し、続いて URL を表示する。

<例> World Heritage Organization, 2019, “Preservation Protocol of Karst Heritage”
<http://www.worldheritage.com/663546.3.pdf>

(原稿の投稿)

第6条 紀要に投稿しようとする者は、委員会が定める期日までに、センター事務局に対し、委員会が指定する内容に従って原稿を提出しなければならない。

(審査)

第7条 投稿された論文の審査は、委員会が行う。

(論文掲載の可否)

第8条 投稿論文の掲載可否は委員会が決定する。原稿の体裁・内容などについて、委員会により指名された査読委員による査読を経て著者に修正を求めることがある。査読委員による査読は2回までとする。

(校正)

第9条 投稿者が自らの責任で校正を行う。

2 校正は、原則として編集に関わる修正（誤脱字、句読点、図表の配置、軽微な表現の訂正など）のみを対象とし、大幅な修正・加筆は認めない。

(著作権等)

第10条 投稿された論文等の著作権は、センターに帰属するものとする。

2 本文の一部や図・表・写真等を他の著作物から転載したり、オリジナルを掲載したりする場合、著作権に関わる問題や法令上の手続きは、投稿者があらかじめ処理す

るものとする。それらについて問題が生じた場合は、その責は投稿者が負うものとする。

3 投稿者は、センターに対して、当該論文等の印刷、電子的記録媒体（CD-ROM、DVD-ROM等）への変換・複製、学内外への配布及び公開を原則として許諾するものとする。

第11条 この規程の改廃は、委員会の議を経て行う。

附 則

1 この規程は、令和元年10月1日から施行する。

附 則（令和3年2月1日変更）

1 この改正は、令和3年2月1日から施行する。

編集後記

山口学研究では、山口県に関係する様々な分野の研究を網羅し、文系・理系の分野融合を目指した新しい研究分野を扱っています。第2巻に当たる本誌には、教育学部の柴田先生らによる「山口県の幻のミカン クネンボ についての研究」、経済学部の西尾先生らによる「スポーツ観光の研究」、国際総合科学部の藤原先生による「周防大島のハワイ移民 中田由松の研究」、地域未来創生センターの脇田による「山口県のジオパーク研究」などが収められています。多様な研究が、山口学として実施され、優れた原稿をお寄せいただきましたことを心より感謝いたしております。併せて、ご多忙な中で査読・審査にご協力いただきました先生方にも、心より御礼申し上げます。本誌では、学術研究論文を始め、学術的価値のある報告や資料、エッセイなど、多様な形の学術成果を掲載することになっております。また、様々な社会貢献に関する報告の投稿も募集しております。山口県に関する様々な分野の研究や報告につきまして、皆様の活発なご投稿をお待ち申し上げます。

令和4年3月1日

山口学研究センター紀要編集委員長

脇田 浩二

編集委員

五島 淑子

萩原 淳

中村 紀幸

岡本 博明

山口大学山口学研究センター紀要「山口学研究」 第2巻

発行日 令和4年3月1日

発行 山口大学山口学研究センター

〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1

TEL 083-933-5630

編集 山口大学山口学研究センター紀要編集委員会

印刷 株式会社 マルニ

ISBN 978-4-909021-05-2